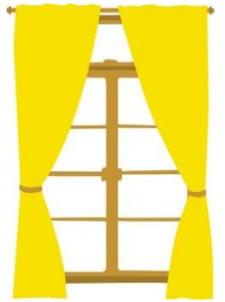


私たちの ‘エンディング’を考える



認知症になっても、シングルであっても住み慣れた場所で、いつまでも自分らしく！

今から 10 年後 (2025 年) には、‘団塊の世代’ が 75 歳以上の後期高齢者になる「超高齢社会」になります。私たち一人ひとりが ‘エンディング’ を考え、終末期を安心して暮らし続けるために、住み慣れたまち 宝塚で、私たちができることは何なのか、を一緒に考えてみませんか。

- ① **11/5 私たちが考える 人生のエンディングとは?**
上村くにこ さん 田上時子 さん
- ② **11/12 宝塚市の介護を取り巻く状況**
藤井さよ子 さん 古田 健 さん
- ③ **11/19 ~最期をどこで過ごしますか~ 終末期の選択** ※③のみ 14:30~16:30
今井信行 さん 堀田市三 さん
- ④ **11/26 自分で決める老後の暮らし**
『おひとりさまを生きる』Part1・2 上映&トーク
エンドウナリコ さん
- ⑤ **12/3 活ること、死ぬことを考えませんか?**
心の拠り所「つどい場さくらちゃん」
丸尾多重子 さん
- ⑥ **12/10 私らしく 最期を迎えたい 介護の現場から**
大平貴子 さん
- ⑦ **12/17 わたしの選択**
フリートーク これからの生き方・老い方
上村くにこ さん 田上時子 さん

☆参加費無料☆



(講師の紹介は裏面をご覧ください) ⇒

【7 回講座】

日 時 : 11 月 5 日 ~ 12 月 17 日 の 木曜日、各 10 ~ 12 時 (※③のみ 14:30 ~ 16:30)

対 象 : テーマに関心のある方 30 人 (宝塚市在住・在勤の方、全回参加できる方優先)

保 育 : 10 人 (1 歳 ~ 就学前まで) 無 料 要予約

申 込 み : 10 月 1 日 (木) ~ 電話 または 窓口へ ☆ センターの HP から申し込みができます ☆
宝塚市立男女共同参画センター (0797-86-4006) へ * 先着順 *

主 催 宝塚市立男女共同参画センター・エル

宝塚市指定管理者

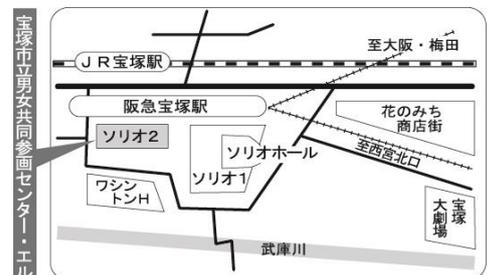
NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西

宝塚市栄町 2-1-2 「ソリオ 2」 4 階

電話 : 0797-86-4006 FAX : 0797-83-2424

http://www.takarazuka-ell.jp/

(駐車場はありませんので、公共交通機関でお越しください)



※ 申込みにあたってお預かりする個人情報は本講座以外の目的で使用することはありません。

「私たちの『エンディング』を考える」 ☆ 講師紹介 ☆

うえむら

上村くにこさん NPO 法人想像文化研究組織 理事長 甲南大学 名誉教授

①⑦

専門はフランス文学、神話、ジェンダー論。著書に、「恋愛達人の世界史」「失恋という幸福」「白鳥のシンボリズム」ほか。大学では「死生学」の講義を続けている。2013年、これまでにない新しい高齢者文化を創りだそうとNPO 法人想像文化研究組織 を立ち上げる。フランスに住むイギリス人のパートナーとは「半別居生活」。宝塚市在住。



ふじい

藤井さよ子さん 宝塚市健康福祉部 安心ネットワーク推進室 介護保険課 課長

②

介護が必要とする状態になった場合、介護保険サービスを利用しながら、できる限り住み慣れた地域で、その人が持つ力を活用して自立した生活が営めるように支援しています。看護師という専門職を活かしながら、介護の相談に臨んでいます。

ふるた たけし

古田 健さん 宝塚市健康福祉部 安心ネットワーク推進室 高齢福祉課 課長

2015年、606万人余。国民のほぼ20人に1人。2025年、700万人余。予備群も含め推計値 — さて、この数字は？今、本市では、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるために介護、医療、介護予防、生活支援体制の構築に向けた取り組みを進めているところです。

いまいのぶゆき

今井信行さん いまい内科クリニック 院長

③

宝塚市生まれ。内科・リウマチ科・腎臓内科・人工透析の専門医として活躍する傍ら、「住み慣れたこの町で、いつまでも安心して過ごしていけるように」地域のかかりつけ医として在宅医療の支援も行っている。2008年10月にはデイサービス「在宅療養支援ハウス 中州・有隣荘」を開設。趣味は、ハイキング、読書。



エンドウノリコさん ビデオ工房 AKAME 代表

④

1993年より6人の女性グループで映像制作を始める。映像制作、女性のための映像制作講座、DVDの販売などの活動をしている。主な作品は『おひとりさまを生きる』(Part1 あなたは老後をどのように暮らしますか) (Part2 最期の選択)、これらの作品でさまざまなおひとりさまを紹介しているが、最期までひとり暮らしだった友人も撮影した。他に『自分をとりもどす ~DV サバイバーからのメッセージ』など被害者に寄り添って制作した作品が多い。

まるおたえこ

丸尾多重子さん NPO 法人つどい場さくらちゃん 理事長

⑤

介護する人、される人、家族、地域等が「まじくる」介護を呼びかけ、阪神西宮駅前で「いつでも駆け込める」つどい場を運営。10年間で母・兄・父と3人の家族を在宅で介護。父を看取った後、ヘルパー1級取得の実習先で介護現場を目の当たりにし、2004年春につどい場を設立。多くのボランティアさん達に支えられながら12年目を突っ走っている。長尾和宏医師との共著「ばあちゃん、介護施設を間違えたらもっとボケるで！」を2014年2月に出版。



おおひら たかこ

大平貴子さん 主任介護支援専門員・介護福祉士・認知症ケア専門士

⑥

神戸市の特別養護老人ホーム、居宅介護支援事業所等に勤務し、介護職歴は20年余り。2012年3月には、所長として定期巡回随時対応型訪問介護・看護センターの立ち上げにも関わる。世の中が、介護保険によって変わってきたことを実感している。現在は、神戸市社会福祉協議会こうべ安心サポートセンター専門員。日本メンタルヘルズ協会公認カウンセラー資格も持つ。

たがみときこ

田上時子さん NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長

①⑦

早稲田大学卒業後、カナダ留学。1988年9月に帰国。女性と子どものエンパワメントに努めている。2011年文部科学大臣より「社会教育功労賞」受賞。一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団監事。JICA人身取引被害者支援・自立支援促進プロジェクト短期専門家。両親の介護・看取りを通して、人生のエンディングのあり方を考えている。

